

# 令和7年度第2回川崎市多摩川プラン推進会議 議事録

1 開催日時 令和8年3月13日(金)午後2時00分～午後3時45分

2 開催場所 川崎市役所本庁舎17階建設緑政局会議室

## 3 出席者(敬称略)

委員長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
委員	五十嵐 豊	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	坂本 享彦	市民公募
委員	大野 光秀	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

## 4 議事

≪報告事項≫

- (1) 多摩川の利用に関するアンケート結果及びトイレの快適化について
- (2) 多摩川の民間活力導入に向けた取組について
- (3) 川崎市緑の基本計画の改定に向けた検討状況について

≪審議事項≫

- (4) 令和7年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】について
- (5) 川崎市新多摩川プランの改定に向けた検討状況について

## 5 配布資料

- ・ 次第
- ・ 令和7年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿
- ・ 資料1 多摩川の利用に関するアンケート調査の実施について
- ・ 資料2 多摩川見晴らし公園周辺の魅力向上に向けた取組について
- ・ 資料3 令和8年度 多摩川河川敷のにぎわい創出等の新たな利活用に向けた社会実験「カワノバ」の運営事業者を公募します！
- ・ 資料4 新たなみどりの基本計画の全体像  
(令和8年1月19日 令和7年度第1回川崎市環境審議会自然共生部会資料)
- ・ 資料5 令和7年度 川崎市新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】
- ・ 資料6 新多摩川プランの改定に向けて

6 公開又は非公開の別 公開

7 傍聴人の数 なし

8 発言の内容 次のとおり(要約方式)

【事務局】（事務連絡・会議の成立に関する説明）

【緑政部長】（挨拶）

【吉富委員長】（傍聴人確認）

<議事(1) 多摩川の利用に関するアンケート調査の実施について>

<議事(2) 多摩川の民間活力導入に向けた取組について>

<議事(3) 川崎市緑の基本計画の改定に向けた検討状況について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【坂本委員】資料冒頭に「川崎市内で唯一の多摩川の船着き場を有している」とあるが、掲載写真には遊覧船のような船が写っている。過去に観光遊覧船などの運航実績があったのか伺いたい。

また、多摩川に一般の動力船を持ち込む場合には許認可が必要と聞いているが、一般利用者が自由に発着できない状況であるとの理解でよいか確認したい。現状では形だけの施設になっている印象があるため、有効活用できればよいと考えている。

【事務局】当該船着き場は、海から近い立地特性を踏まえ、国と連携して防災船着き場として整備したものである。防災用途に加え、観光拠点としての活用も検討され、一時期には民間事業者が参入し、夏季にお台場方面まで船を運航していた時期があった。しかし、その後事業者が撤退したため、現在は常設の運航事業者は入っていない。

現状では、川崎市経済労働局が関与し、観光協会等と連携したクルーズツアーを年1回程度実施している状況である。船着き場は通常施錠されており、使用時に開錠する運用となっているため、一般の利用者が自由に使用できる状況にはないと認識している。

今後については、こうした現状を踏まえ、船着き場の在り方や活用方法について見直しを進めていきたいと考えている。

【江原委員】資料1のアンケートについて、春頃に実施したとの説明であったが、季節を変えて再度実施したのか、実施時期は秋口であったのかを確認したい。また、曜日や利用状況によって利用者層が大きく異なると考えられることから、イベント時や野球利用時、子どもと保護者が集団で自転車利用する場面など、多様な利用形態を踏まえたトイレ整備が進むことを期待している。

あわせて、多摩川河川敷では降雨時に水たまりが発生しやすいことから、トイレ設置に当たっては、大雨時においても利用が可能か、排水が適切に機能するのかについて配慮した整備をしていただきたい。

【事務局】アンケートについては、第1回を冬季に実施したため、今回はスポーツ利用が多いオフシーズンである春季に実施したものである。トイレ整備については、通常の降雨時において水たまりを通らずに利用できるよう、舗装されたマラソンコースと一体的に整備する方向で検討している。

また、大雨や台風時の増水時には、河川管理上、トイレをクレーン等により撤去し、河川敷に

工作物が残らないよう対応する必要がある。

【江原委員】設置予定のトイレがすべて水洗方式となるのか。

【事務局】基本的には簡易水洗方式を採用し、便槽に汚水を貯留し、一定量に達した時点でくみ取りを行う方式を想定している。ただし、二子橋エリアの一部については、水洗トイレとして汚水をポンプアップし、内陸部の下水道へ排水している箇所が1か所あり、当該箇所については現行の水洗方式を継続する。

【江原委員】河川敷のランニングコースについて、未舗装区間では排水不良により水たまりや轍が発生し、砂利や砂による補修を繰り返しても走行性が悪い状況が続いている。特に二子橋から丸子橋にかけては利用者が多く、舗装と未舗装が断続的に続くことで同様の問題が繰り返されているため、可能であればアスファルト舗装を検討してほしい。

【大野委員】河川敷の排水状況は地質に左右される部分があり、粘土分が多い場所では水はけが悪くなる場合があるため、場所ごとに状況が異なる。

【事務局】ダスト舗装による補修をこれまで数回実施しているが、工法上、再び水たまりが生じる箇所については、現地の状況を踏まえ、舗装化を含めた対応を検討していきたい。

【堀委員】アンケートにも「汚れている」という意見が多く出ているので、設置後の清掃やメンテナンスがすごく大事だと思う。掃除をきちんと続けていけるように、予算も含めて計画的にやってほしい。

また、資料4で説明があった緑の基本計画について、多摩川との関係が正直よく分からなかった。川崎市は、工業地帯もあれば住宅地もあり、区によって特性がかなり違う。一括りに整理してしまうと、大事な課題が見えにくくなるのではないかと思う。川崎区や幸区に、そのまま当てはめるのは難しいのではないか。

さらに、多摩川は狭いながらも生田緑地や二ヶ領用水などがあり、流域全体で考える視点が大切だと以前から感じている。鶴見川では、大学や市民団体と連携して、自然調査や計画づくりがうまく進んでいる例もある。川崎市でも、大学などと連携しないと、行政だけではなかなか続かないのではないか。

それと、「みどり」と言っても、人によってイメージが違う。森林なのか、街路樹なのか、花なのか、何を目指しているのかを整理しないと、「ネイチャーポジティブ」と言われても分かりにくくなると思うので、その辺りも整理してほしい。

【事務局】緑の基本計画については、現在の審議状況をホームページで公開しており、今回の資料はあくまで抜粋である。地域ごとの特性や流域をベースにした自然環境の考え方については、審議会でも意識して議論しており、本日の意見も踏まえて検討を進めていきたい。

【堀委員】多摩川に直接面していない区も含めて、区ごとの生活単位を意識した整理がやはり必要だと思う。

【事務局】都市計画などとも連携しながら、その点も含めて検討を進めていきたい。

【小野委員】アンケートについて、現場ではいろいろ工夫されていると思うが、回答者数が579人という数字について、現時点で十分と考えているのか、それともまだ足りないと考えているのかを聞きたい。

【事務局】前回は冬場を実施したため、スポーツ利用が少なく、普段使いの利用者からの回答が

中心だった。今回は野球やサッカーのオンシーズンに実施したことで、長時間河川敷を利用する方など、前回とは異なる利用者層の意見を聞くことができたと考えている。

【小野委員】市民の声は施策を進めるうえで大きな根拠になると思っているので、できるだけ多くの声が今後の取組に反映されるとよいと思う。

【五十嵐委員】「釣り」に関する回答が非常に少ない点が気になったとの意見があった。これは、釣りをしたくても場所がない、釣り場が整備されていないことが理由ではないか。

川崎の多摩川はグラウンド利用が中心であり、そのため利用が特定の層に偏り、今回のアンケート結果も実態をよく反映していると感じている。そのうえで、釣りを含め、一般市民がもう少し関わって楽しめる川づくりを、国交省とも連携しながら進めてほしい。

具体的には、ベンチの設置なども含めて、小さな子どもや今後増えていく高齢者も楽しめる川にしてほしい。

【目黒委員】トイレについて、4年間かけて整備していく計画について、便利になる場所がある一方で、整備が遅れる場所との差が出てしまうのではないかと感じている。可能であれば、もう少し期間を短縮するなど、進め方に工夫ができるとよいのではないか。

また、多摩川見晴らし公園については、今後アリーナシティの整備が進み、数年後には川辺へ人の流れが出てくる計画があると理解している。その動きと一体で進めるのが理想だとは思いますが、今回は見晴らし公園を先行して整備し、将来のまちづくりを見据えた形で進めていく考えなのか、その点を確認したい。

【事務局】見晴らし公園については、2030年頃に予定されているアリーナのオープンを認識したうえで、募集要項の中でも大規模開発と連携した活用を想定している。まずは公園側で先行して少しずつにぎわいを生み出しながら進める考えであり、事業自体は20年程度の長期で捉えている。アリーナ完成後も、周辺事業者と連携しながら、市民が楽しめる場づくりを進めていきたい。

【寺尾委員】川崎市は東西に長く、多摩川沿いでも川崎区と多摩区では状況がかなり異なると感じている。これまで要望してきた路面舗装が殿町の水神社裏で新しくなり、以前より素材も良くなっていると感じている。今後も継続して整備を進めてほしい。

【大野委員】行政側の話になるが、先日26日に多摩川の河川整備計画が変更され、今後は環境面の計画づくりにも取り組んでいく段階に入っている。その中では、流域自治体が策定している緑の基本計画なども取り入れながら、環境計画を見直していく動きがある。

また、川の中だけを見るのではなく、多摩川流域を少し広めに捉え、公園や歩道、水路なども含めた連携を意識しながら計画を作っていければと考えており、川崎市ともそうした方向性で話をしているところである。

トイレについても、維持管理のコストがかかるため、清掃頻度やバランスを考えながら、市として全体計画を立てているものと認識している。

なお、洪水や大雨の際については、トイレが流出すると橋や堤防などに被害を与える恐れがあるため、河川管理者としては原則として撤去をお願いしている。

【吉富委員長】

流域を考える際には、河川そのものだけでなく、コミュニティや自治体といった人が認識しや

すい単位で捉えることも大切だと感じている。

多摩川全体という大きなスケールだけでなく、支川レベルなど、流域の単位をうまく使い分けながら進めていくことが重要であり、全体を俯瞰しつつも、身近なスケールで考えていく視点が必要だ。

#### <議事(4) 令和7年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】について>

【事務局】(資料に基づき説明)

【堀委員】まず、2ページの「花と緑のある川づくりの推進」の中にある、御幸公園の梅香事業について、「幸区の魅力であり資源である御幸公園」という表現の意味がよく分からないと感じた。例えば「幸区の魅力がある歴史ある御幸公園」といった説明であれば理解できるが、この書き方だと分かりにくいのではないかと思う。

また、二ヶ領用水の説明部分について、ほかは元号で書いてあるのに、ここだけ西暦になっている点が気になった。できれば元号に統一したほうがよいことと、西暦表記の場合は、カンマを入れないので修正してほしい。

さらに、9ページの川崎多摩川マラソン 2025 の開催日について、令和6年となっているが、正しい年なのかを確認したい。

【事務局】記載の修正が間に合っていない箇所があり、申し訳ない。川崎多摩川マラソンの開催年については、正しくは令和7年である。また、報告書の全体構成については例年と同じである。

【寺尾委員】資料12ページの「多摩川を活用したイベントの開催」のところを見て、これまで実施されていた「川の日(7月7日)」のイベントが載っていないように感じた。たしか「水辺で乾杯」というイベントがあったと思うが、なぜ記載されていないのか理由を知りたい。

【事務局】「水辺で乾杯」は国のミズベリング事業の一環として、過去に多摩川でも実施されていた時期があったと聞いている。ただ、地域で中心となって進めていた方がコロナ禍などをきっかけになくなり、現在は継続していない状況だと認識している。ほかの自治体では実施例が残っているが、川崎市が主体となったイベントとしては、現時点では実施されていないのが実情である。

【江原委員】年号だけでなく、マラソンの参加人数などの数値についても、前年の数字がそのまま載っている場合、一般の人には正誤が分からない。事務局側だけが正しい情報を知っている状態になってしまうので、昨年度分と重ねて使っている部分は、改めて慎重に確認してほしい。

【事務局】この点については事務局の責任であり、正確な数字や年号になるよう、しっかり修正・整理していきたい。

【小野委員】毎年たくさんの事業を実施されていて、全体としてはとても素晴らしいと思っている。そのうえで、報告書の構成について少し気になる点があった。基本目標ごとに色分けされているが、見出しの後に説明文が入っているところと、入っていないところがあり、総括的な書き方なのかどうか少し分かりにくく感じた。

【事務局】基本目標がページをまたいでいる場合、次のページにはタイトルのみが表示され、文章が入っていない構成になっている。

【小野委員】できれば総括文の中に、その年に実施した事業について、目標に対してどうだったのかといった分析や評価があると、次につながるのではないかと感じている。

【事務局】重要な視点であると受け止め、今後は事実の列挙だけでなく、その結果や評価についても記載できるか検討していきたい。

【坂本委員】多摩川を代表する魚として、やはりアユを取り上げてほしいと感じている。コイやナマズなどもいるが、最近アユが注目されており、川崎内水面漁協の協力で毎年稚アユの放流が行われ、天然遡上や産卵床の定着も見られている。

4月にはせせらぎ館で稚アユの放流も予定されており、報告書7ページの写真欄が空いているので、アユ放流の写真を載せるのも良いのではないかと感じている。また、過去の「川崎市多摩川プラン」ではアユの経年観察調査が明記されていた経緯もあり、『多摩川は今』にもアユについて何らかの記載を継続して入れていくことが望ましい。

【事務局】現在は新多摩川プランに基づいて施策を進めているが、アユが多摩川の復活を象徴する存在であるという認識は共有しており、市のサインやロゴにもその思いが込められている。報告書への記載については、毎年必ず取り上げることを約束するのは難しいものの、どの事業と親和性があるかを含め、今後検討していきたい。

【坂本委員】新多摩川プランでは項目が増えていることは理解しているが、それでも多摩川を代表する存在としてアユは重要だと考えており、引き続き検討をお願いしたい。

【吉富委員長】魚類が報告書に掲載されることについては、個人的にもとてもうれしく感じている。アユは、生息地が将来にわたって維持されているかどうかを示す存在でもあり、河川整備や環境の観点から見ても、多摩川を象徴する生物だと思っている。今後、何かの事業と結び付ける形でもよいので、機会があれば位置づけを見直してもらえればと思う。

【目黒委員】「自然と調和した美しい多摩川」というテーマで考えると、これまで魚や生物多様性の話は多く出ているが、鳥についてはどうなのかと感じている。川崎区にいとると緑の話はあまり実感しにくいですが、もう少し上流側に行けば鳥も見られるのではないかと感じている。また、川崎区周辺では、タヌキやアライグマが見られることもあり、魚だけでなく、鳥や動物といったキーワードも入れることで、川崎の多摩川らしい特徴が表現できるのではないかと感じている。

【堀委員】子どもたちが自然に興味を持つきっかけとしては、植物よりも動物、とくに昆虫や魚などの身近な生き物である。多摩川と親しむ入口として、生き物を切り口にするのは非常に有効だと思う。

現在は昔のような自然環境は少なくなっているが、河川敷には今でも多くの昆虫がいるため、そのような情報を小中学生、とくに小学生に示していくとよいのではないかと感じている。また、川崎市では自然というと生田緑地に目が向きがちだが、生田緑地も多摩川流域の一部であり、セットで捉える視点が大切だ。生態系という言葉にとらわれ過ぎず、多様性という観点で、分かりやすい動物や植物を取り上げていくのがよいのではないかと感じている。

【五十嵐委員】先ほど話題に出た鳥の件について補足したい。川崎市が鳥に関心がないというわけではないと思うが、多摩川には水辺の楽校が21か所あり、実際には野鳥観察が多く行われている。そうした活動の中で、鳥のデータを整理すれば、河口から上流まで場所ごとの違いも見えてくるはずである。流域全体の話になると大変ではあるが、可能であれば、どこかに鳥の情

報も盛り込むのも一つの方法ではないか。

また、そうした取組は川のつながりを示すものでもあり、アユと同じように象徴的に扱えるのではないか。

#### <議事(5) 川崎市新多摩川プランの改定に向けた検討状況について>

【事務局】(資料に基づき説明)

【吉富委員長】大野委員、国の計画を反映する観点から見て、今回示されている改定時期は適切か。

【大野委員】資料に示されているとおり、国として進めている計画についても、令和9年以降を目標に動き始めているところであり、その点では川崎市のスケジュールと歩調が合っている。

【吉富委員長】現行プランで大事にしてきた取組をどう継続するか、また関連する計画の変更に対応して、新たな課題にどう取り組んでいくかが重要になる。

【事務局】新多摩川プラン改定については、ようやくスタート段階に入ったところであり、今後2年間かけて委員の意見を伺いながらまとめていきたいと考えている。本日の意見に限らず、今後も随時意見を出してもらえればありがたい。

【堀委員】川崎市は7つの区で構成されており、市全体の視点も大事だが、実際の行政や住民の生活は区単位で成り立っていると感じている。区ごとに環境や特性が大きく違うため、区に落とし込んだときの課題や整理が見えるようになると、学校現場や区民にも分かりやすくなり、多摩川との関わりも身近になるのではないか。多摩川に直接面していない区でも、流水域としての関わりを示し、区ごとの新多摩川プランのような形で整理できれば、教育現場も含めて、より多摩川との親密度が高まるのではないか。アユや動植物といった視点も含め、区の特性に応じた展開を検討してほしい。

【事務局】指摘のとおり、今回の検討に当たっては担当部署も含め、市役所内部の関係部署が広く関わっている。委員からの意見も踏まえながら、区の視点も含めて検討を深めていきたい。

【江原委員】これからは気候変動の影響がますます大きくなり、熱帯夜の増加や、集中豪雨、線状降水帯の発生が今後さらに増えていくと思われる。そうした中で、多摩川の取組を考える際には、四季といった時間的な切り口や、地域性の違い、さらに上流・中流・下流といった川の区分など、いくつかの切り口を整理することが大切ではないかと感じている。

全体像を示すことも重要だが、地域によって環境条件や課題は異なるため、地域ごとの違いが分かる整理の仕方が、市民にとっても理解しやすく、親しみを持ちやすいのではないか。子どもにとっても、「この地域ではこんなイベントがある」「ここではこんな自然が楽しめる」といった示し方が必要ではないか。

また、生態系についても、気候変動の影響で変化していくことが想定されるため、河川の取組だけでなく、民間や専門家とも連携しながら進めていく視点が必要だと感じている。

【事務局】これまで基本目標に沿って整理してきたが、今後は今回示されたような切り口についても、どのような整理ができるか検討していきたい。

【吉富委員長】今後予想される課題や、堀委員が指摘したような、身近で捉えやすい空間スケールでの魅力整理についても、一度整理しておくことが重要ではないか。

【緑政部長】本日多くの意見をいただいたが、現在進めている緑の基本計画の改定に関する検討の中でも、参考になる話がある。オンラインで行っているアンケートや学生からの意見を見ると、多摩区の専修大学の学生からは、「大事にしたい自然」として生田緑地ではなく、多摩川を挙げる声が非常に多かった。

また、市民アンケートでも、年によって多少の増減はあるものの、「残していきたい自然」として多摩川は常に安定して高い評価を得ており、多くの人々が「自然＝多摩川」と捉えている印象がある。

そうした中で、地域ごとの課題を踏まえる視点や、多摩川が市内全体をつなぐ軸になっているという考え方は非常に重要だと感じている。アユの遡上の変化なども、川がきれいになってきたことを示す一つの分かりやすい指標であり、そうした要素も含めながら、今後の計画に反映していければと思う。本日の整理は非常に意義があると感じている。

【小野委員】多摩川から流域にかけて、私たちはいろいろな形で関わりや恵みを受けていると思う。そうした「流域の恵み」を一度整理してみると、流域ごとの違いも見えてくるし、新しい恵みを生み出す視点にもつながるのではないかと感じている。

その整理が、今後の基本目標や施策に反映されていけば、「こういう考え方で進めているんだ」ということが分かりやすく伝わると思う。プランを新しく考えるにあたって、そうした整理を試みるのも良いのではないか。

【吉富委員長】資料のまとめ方についても、いろいろな構成の仕方が考えられるのではないか。時間の流れなどを意識した項目立てをして、図として整理する方法もあるのではないか。

【事務局】本日は多くの意見が出ており、「恵み」「子ども視点」「世代ごとの課題」など、見る立場によって視点が異なることが改めて分かったと感じている。そうした視点が、今後の基本目標につなげやすいか、また市民にとって分かりやすいかを意識しながら、計画づくりを進めていきたい。計画は作る過程も大事であり、関わってもらえるような工夫を取り入れていきたい。